

INTERVIEW

Sena SAKAGUCHI

トラブルフリーで
残りのレースを
戦えるようにしたい

#38 38号車ドライバー
阪口 晴南

RACEARCHIVE Rd.8

Sportsland
SUGO



39号車ドライバー
都史樹

TODAY'S RACE Rd.9

FUJI SPEEDWAY
10 SAT - 11 SUN Oct

#6
NEWS PAPER

RACE ARCHIVE

Rd.8 スポーツランド SUGO
Sportsland SUGO

予選 8月8日(土)
天候:曇り/晴れ
路面:ドライ
7月17日(金)～19日(日)
に富士スピードウェイで行われた第4大会から3週間。

阪口、大湯ともに セットアップを確認

2026年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は宮城県のスポーツランド SUGO に舞台を移し、第5大会を迎えた。前大会は3レース制で非常にハードなスケジュールだったが、このSUGO大会は1レース制。8月8日(土)～9日(日)の2日間で争われる。富士大会では2台ともに多くの課題と手ごたえを得ていたSANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、タイトなスポーツランド SUGO 行われる第8戦での好結果を目指し、まずは予選上位を得るべく走行に臨んだ。午前のフリー走行は日射しも強く、うだるような暑さとなっていたスポーツランド SUGO だが、午後2時20分から行われる公式予選の前に分厚い雲が近づき、遠くには雷鳴も響くコンディションとなった。幸い雨の心配はなさそうだったが、気温29度/路面温度43度と、公式予選Q1はフリー走行終盤に比べやや涼しい状況で迎えた。このスポーツランド SUGO は非常にタイトなコースであり、オーバーテイクもしづらい。予選順位は重要となる。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは「予選に対して、クルマとしてももう少しやれるところもあったので、2台でのデータを共有し

ている中での良いところを合わせ込んでいきました」と大湯が語るとおり、2台の力を合わせ、

まで設定された予選としたのは大湯。コースに戻り、ニュートコースインすると、

を使いアタックを647というタイした。続くBに大事です」とひスへ。ここで阪口はし、3番手へ。なった。公式予選Q1午後2時55分からQ2選Q3に進出することが台はともに1周をチェッ

ランプランも
こなせて、
悪くない感触

ときわグリッドの重要性を語っていた阪口は、大湯同様一度ピットインした後、再度コーチェッカー後にひとつポジションを落としたものの、1分05秒535までタイムを伸ば

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは2台がともにQ2に進出すること

の後、スポーツランド SUGO 上空はさらに雲の厚さが増し、気温も一気に下がるなかでがスタートした。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの阪口と大湯は、予

できる手ごたえを得てQ2に臨んだ。コースオープン後、他車が一度ピットに戻ったのに対し、2

カーに向けて続々とタイムが記録されていくなか、阪口は1分05秒389、大湯は1分05秒402というタイムをマークしたものの、このQ2はスーパーフォーミュらしい超僅差の争いに。阪口は10番手、大湯は11番手という順位となった。阪口についてはQ3進出まで

0.084秒という差だっただけに、悔しさも募る結果となった。フィーリングとしては

Q3進出、さらに予選上位グリッドも十分に可能だったが、これがスーパーフォーミュラの難しさ。チームが望んだ結果ではなかったが、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、翌日の決勝レースでの挽回を目指していく。

午後2時20分から行われた第8戦の決勝レースは、前日の予選同様雲が多くなり、気温、路面温度とも午前のフリー走行から大きく低下した。フォーメーションラップ開始時のコンディションは気温26度/路面温度35度というもの。フリー走行2回目からの温度変化にも対応が必要となった。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、阪口が10番手、大湯が11番手からスタートを切った。2台ともにスタートは課題を抱えるものとなったが、中でも位置取りが悪かったのが阪口で、ふたつポジションを落としてしまい12番手に。一方、大湯はひとつ順位を上げ11番手につけることになった。4周目、1コーナーで7番手を争っていた#野村勇斗がコースアウトしたこと

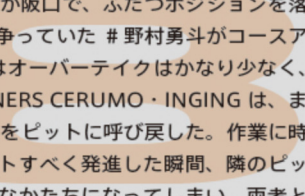
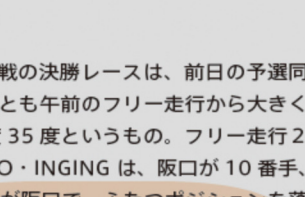
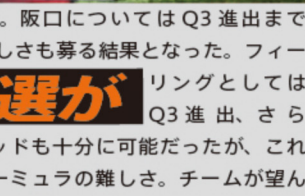
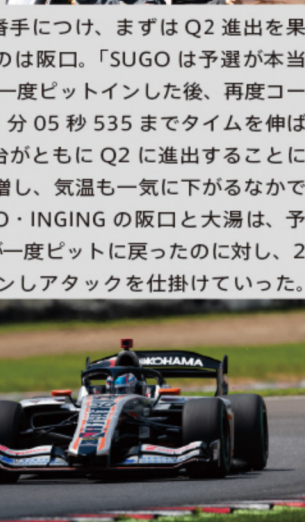
で、大湯は9番手、阪口は11番手に浮上した。レース前に予想されたとおり、序盤はオーバーテイクはかなり少なく、

が続けられていった。この流れを変えるのは、やはり戦略。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、またウインドウがオープンした13周で、比較的好ペースで9番手を走っていた大湯をピットに呼び戻した。作業に時

かっってしまうが、ここでさらに思わぬアクシデントが起きた。大湯がピットアウトすべく発進した瞬間、隣のピットとしていた#8山下健太が大湯の目の前に出現してしまった。お見合いのようなかたちになってしまい、両者とムロス。さらにレース後半、大湯にはアンセーフリリスによってが課されることになってしまった。一方、阪口は序盤にラチがピットインしたこと

で少しづつ順位を上げていき7番手まで浮上したが、敢えて前方が開けた状態で走ることで

決勝でのベース改善にも取り組んでいった。



阪口は 悔しいリタイア

しかし、力走をみせていた阪口に突然のトラブルが襲いかかった。27周目、馬の背立ち上がりで突然エンジンが停止し、SPコーナーでストップしてしまった。阪口は悔しいリタイアとなった。この阪口のストップ、さらに#97ロマン・スタネックのコースアウトでレースはセーフティカーランとなったが、この直前、大湯は後方を走っていた#28小林にヒットされてしまうシーンも。幸いスピン状態からふたたびコースに戻ることはできたが、大湯にとっては厳しいレース展開となった。セーフティカーは36周目に退去したが、その後大湯は#28小林をオーバーテイクし返すなど力走をみせたものの、それ

表彰台争の 阪口に悲劇

上の順位アップはならず、最後はピット作業時のタイムペナルティも課され15位でレースを終えた。まさかの無得点のレースウィークとなってしまったSUGOでの第8戦。次戦富士での2レースでふたたび好結果とポイントを取り戻していく。

Sena SAKAGUCHI #38 38号車ドライバー 阪口 晴南

INTERVIEW@6 悪いスタートでは なかった

もあったものの、余裕はありませんでしたね。結果的にトラブルでストップすることになってしまいましたが、課題が多かった富士に対して、SUGOはチャンスだと思っていたので悔しいです。次の富士でしっかり巻き返さないとはいけませんし、トラブルフリーで今シーズンの残りの2大会4レースを戦えるようにしたいですね。



手応え求めて 何かを掴めるか

スタートダッシュから想定以上に悪く課題となりましたが、ポジションは上げることはできました。その後は前に引っかけたこともあり、ミニマムでピットインしたものの、ミスやアンセーフリリスがあり、勝負権を失ってしまいました。ピットアウト後もまた引っかけり、途中、セーフティカーランの前に#28小林選手にヒットされてしまい、セーフティカーランで

タイヤも苦しくなってしまうたりと、どうしようもない状況になってしまいましたが、なんとかうまく走れたと思います。終盤までも小林選手と争うことになりましたが、『知らないぞ』と思いながら(苦笑)チェッカーを受けることになりました。次戦富士までの間にSUPER GTもありま

すね。

阪口選手は苦しいスタートポジションから少しずつ順位を上げようと頑張ってくれましたが、残念ながらトラブルでストップしてしまいました。原因についてはしっかり究明しなければいけません。大湯選手についてはフィーリングも悪くなく、ベースも比較的良かったのでアンダーカットを狙いましたが、ピットでのミス、さらに隣のKCMGさんとの交錯もあり、迷惑をかけてしまいました。申し訳なかったですし、お互い損をしてしまったので気をつけなければいけません。残念ながらその後も展開には恵まれず、ペナルティもあり15位と苦しいレースとなりました。次はふたたび富士なので、そこでリベンジできるよう頑張ります。応援ありがとうございます！



Results 38 阪口 晴南 予選 10位 決勝 リタイア
39 大湯 都史樹 予選 11位 決勝 15位

悪い

スタートではなかったのですが、流れも悪かったですし、課題があるものとなりました。レースが落ち着いてからはSUGOらしい展開になりましたが、ベースは少し苦しかったです。そんな中で、戦略も考えセオリーではないにせよ、単独走行で走りピットインを遅らせることにしましたが、ベースが良くなる時

Toshiki OYU #39 39号車ドライバー 大湯 都史樹

スタートダッシュから想定以上に悪く課題となりましたが、ポジションは上げることはできました。その後は前に引っかけたこともあり、ミニマムでピットインしたものの、ミスやアンセーフリリスがあり、勝負権を失ってしまいました。ピットアウト後もまた引っかけり、途中、セーフティカーランの前に#28小林選手にヒットされてしまい、セーフティカーランで

タイヤも苦しくなってしまうたりと、どうしようもない状況になってしまいましたが、なんとかうまく走れたと思います。終盤までも小林選手と争うことになりましたが、『知らないぞ』と思いながら(苦笑)チェッカーを受けることになりました。次戦富士までの間にSUPER GTもありま

すね。

阪口選手は苦しいスタートポジションから少しずつ順位を上げようと頑張ってくれましたが、残念ながらトラ

ブルでストップしてしまいました。原因についてはしっかり究明しなければいけません。大湯選手についてはフィーリングも悪くなく、ベースも比較的良かったのでアンダーカットを狙いましたが、ピットでのミス、さらに隣のKCMGさんとの交錯もあり、迷惑をかけてしまいました。申し訳なかったですし、お互い損をしてしまったので気をつけなければいけません。残念ながらその後も展開には恵まれず、ペナルティもあり15位と苦しいレースとなりました。次はふたたび富士なので、そこでリベンジできるよう頑張ります。応援ありがとうございます！



Results 38 阪口 晴南 予選 10位 決勝 リタイア
39 大湯 都史樹 予選 11位 決勝 15位



2台ともに スタートに 課題抱える

決勝でのベース改善にも取り組んでいった。